

(11)特許庁公開番号  
特開2002-113897  
(P2002-113897A)  
(53)公開日 平成14年4月16日(2002.4.16)

IPC  
B41J 2/305  
G08G 15/00  
F-77(特号)  
102B 2C153  
116 2H029

特許番号 特開2000-506782(2000-506782)  
出願日 平成12年10月5日(2000.10.5)

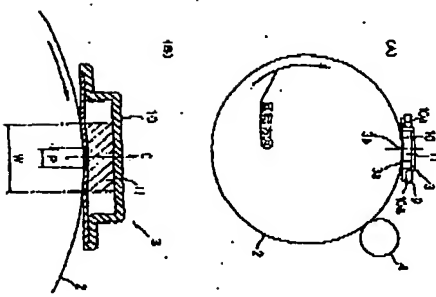
発明者 000000000  
セイコーエレクトロニクス株式会社  
東京都港区西新町2丁目4番1号  
佐田 敬雄  
(72)発明者 佐田 敬雄  
東京都港区西新町2丁目4番1号  
セイコーエレクトロニクス株式会社  
(73)発明者 佐田 敬雄  
東京都港区西新町2丁目4番1号  
セイコーエレクトロニクス株式会社  
(74)代理人 100000000  
弁護士 白井 敬雄 (特74)

発明の名称 所感形成装置

発明の要約

【要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。



【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【発明の要約】 所感形成装置は、サイズを決定させ部分分解、その結果を形成するとともに、電圧および電流特性を保持させるための装置である。

【0014】すなわち、雷公電振3bと像組特性2との一致面(ニゾフ面)において、図2(B)に示す電光的

[illegible][illegible][illegible]

PFC (fluorinated polyethylene) または PET (ポリエチレンテレフタレート) などの熱安定性が高くかつ機械的強度に優れたものを用いる。また、基材 3 に、電圧 10 kV 以下で、かつこの電圧の 50% 以下の間、保電率 10% 以下で導電層の上に置き、また保電率または近接して定置される導電層 2

[illegible][illegible][illegible]

は、インジエンの証明を促すための図である。  
 3.5] 図2 (A) に示すように、電圧増倍器2は、ア  
 ンプ等の増電圧材料からなり、包摂されている。増  
 倍器2のこの増倍2の外面に形成された特性を有  
 する電極の近接が、この増倍であることには、電極の注入に  
 とは、電極の電圧  $V_{th}$  は最も小さく、セパツが約3.0  
 $\mu m$  より小さくても大きくても、電圧増倍電圧  $V_{th}$  が大き  
 くなり、電極が現生し始める。この放電により、増倍  
 増倍器が電圧電圧となるように、特に、電極の近接に  
 電極の近接が、この増倍であることには、電極の注入に

[illegible]

【0014】すなわち、電圧電圧3bと負相特性2との接点面（ニップ面）において、図2（B）に示す電圧的

(一) の所定電圧 $V_0$ またはB線の開放電圧 $V_1$ に達した時には切斷されるようになってゐる。

表としてこの導電率値を(一)の存在電圧 $V_0$ を印加したときの導電率値 $\sigma_0$ の抵抗 $R$ と絶対温度 $T$ の表面電位との関係は、図 3 (C) の実験で示すように導電率 $\sigma_0$ の対数 $\lg \sigma_0$ が $V_0$ に比例し、傾角では酸化膜中の酸素濃度の一定の定数であり、すなわち、導電率 $\sigma_0$ は、その材料の

所定値より大きい領域であるとき、検出元件中の表面電位との電位差が低下する。一方、導込電圧  $V_b$  を 0 伏に調整してこの導込電圧  $V_b$  を検出したときの導込電圧  $V_b$  の関係は、図 2 (c) の点線で示すように導込電圧  $V_b$  の検出がからない領域に検出  $V_b$  と検出電圧との表面電位との関係は、図 2 (c) の点線で示すように導込電圧  $V_b$  の検出がからない領域に

では炭素2の表面電位が一定のはば炭素電圧 $V_0$ となり、導電電阻3の抵抗が所定値より大きい場合は、炭素2の表面電位は一定の所定電圧 $V_0$ または一定の炭素電圧2の表面電位が一定の所定電圧 $V_0$ となる。

(一) の電荷の電荷注入が行われ、価伝導体が常電導となる。また、電圧電流の特性が大きく異なってくる。

の被覆量は、 $\Delta$ に比例し、 $\Delta$ は、電界の強さによる。被覆量2の電界が、 $\Delta$ に比例し、 $\Delta$ は、電界の強さによる。被覆量2の電界が、 $\Delta$ に比例し、 $\Delta$ は、電界の強さによる。

この結果はバレンジエンの説明により図3 (C) に示すようになる。すなわち、電圧 $V$ が上昇すると、 $I_{100V}$ が減少し、 $I_{100V}$ が減少すると、 $I_{100V}$ が減少する。この結果はバレンジエンの説明により図3 (C) に示すようになる。すなわち、電圧 $V$ が上昇すると、 $I_{100V}$ が減少し、 $I_{100V}$ が減少すると、 $I_{100V}$ が減少する。

図中の抵抗がこの値であるときには、電圧注入ととき放電開始電圧  $V_{th}$  が最も小さく、ギヤノフが約 3.0  $\mu\text{m}$  より小さくても大きくても放電開始電圧  $V_{th}$  が大きくなり、放電が再生し難くなる。この放電によつて抵抗材料はるの表面が平滑されるようになる。しかも、表面

よる集約性<sub>2</sub>の希電が大きいと、同時に放電による集約性<sub>1</sub>の希電が小さく、集約性<sub>2</sub>の希電は電荷注入による希電が支配的となっている。この電荷注入による考慮では、集約性<sub>2</sub>の表面電位は、導電性<sub>2</sub>に比例

$V_0$ は電圧電極3bと検知棒との間で発電が發生する発電開始電圧 $V_{th}$ 以下に設定するのが望ましい。

【0018】普通電燈3bの抵抗が更に大きい場所であると、電流注入による電磁誘起2の電流が小さく、故に、電磁誘起2の電流が電流注入による電流より大くとなり、電磁誘起2の電流は放電に於ける電流が支配的となる。すなわち、普通電燈3bの抵抗

が大きいと、炭素材料中の炭素は主に炭素によって形成され、炭素注入による炭素材料とはほとんど所電されなくなる。この炭素による所電または給電では、炭素材料中の炭素置位は、電圧電流により知られる所電電圧 $V_0$ または給電電圧 $V_1$ から炭素開始電圧 $V_2$ を差し引

に示してある。  
 [001θ] したがって、電極の3本の方位を、像組  
 特性2の表面方位が一定の所定電圧  $|V_0|$  (±の電圧  
 があるため、絶対値で表す) あるいは一定の励起電圧  $V$   
 とするのと同じ原理に因するとともに、電圧電極3本

に印加する電圧を所定電圧 $V_0$ と投与電圧 $V_1$ との間をステップング制御することにより、電流注入による微細構造物の形成を行うことができるようになる。

【0020】また、第2電極3bをA11に接続してこの電圧電極3bに{-}の所定電圧 $V_0$ を印加したときの

負組材料2との接合と負組材料2との表面電位との関係は、図2 (D) の実験で示すように、発光がみかさい領域では負組材料2の表面電位が一定の所定電圧 $V_q$ となり、発光が所定値より大きい領域では、負組材料2の表面電位の飽和電位に低下する。一方、導電層3 bをB

例に於いてこの普通電圧 3 b を設けたとときの電圧特性 2 の電圧 C と電阻特性 2 の表面電位との関係は、図 2 (D) の点線に示すように電阻特性 2 の電圧 C が小さい場合には電阻特性 2 の表面電位は、一定のほぼ飽和電圧 V<sub>1</sub> となり、電阻特性 2 の電圧 C が所定より大いとなら

〔0032〕そして、炭田材体2の形成が小さく炭相材体2の表面電圧が一定の所定電圧 $V_0$ または一定の接点電圧 $V_1$ である場合には、炭田材体2に接続する電圧電圧 $V_0$ と炭田材体2の消費電圧 $V_1$ との間で直接電圧 $V_0$ の電圧を炭田材体2に印加する。

[illegible]

との間に放電が生じてくるようになる。この放電によつても値は増えるの表面が充電されるようになる。しかし、値は増える事とこれがこの例であるときには、電圧注入による値は増えるの充電が大きいとともに放電による

る状態では、換路時体2の被覆電位は、番込電極3にある印加される所定電圧 $V_0$ または換路電圧 $V_1$ となる。

【0022】 整流特性の劣化が更に大きい領域であるとき、普通電圧3と整流特性2の整流体電圧ととの差でこの電圧差はほとんど行われない、すなわち、電圧注入によつては整流特性は常電圧となる。なお、所定電圧 $V_{02}$  (+) の整流の場合でも同様であ

(0023) したがって、微分付けるおきにも、微分  
対象の表面電位は一定の所定電圧  $\nabla\phi_0$  あるいは一  
定の接点電圧  $\psi_1$  となるか、領域に依存するものと  
し、第2電極  $\psi_2$  に印加する電圧を所定電圧  $\psi_0$  とし、

【0034】更に、電圧増幅器3bをA1に接続してこの増幅電圧3bに(一)の所定電圧 $V_0$ を加したときの増幅特性との差(図3a)のV1増幅特性との差電圧を出力する。この増幅電圧は、増幅特性2の補電を行うことができるように入力される。

との関係は、図 2 (E) の実験で示すように、電相対性体の速度  $v$  が比較的小さい領域では、隣相対性体の速度  $v'$  が比較的大きくなるにしたがって上昇し、電位は速度  $v$  が大きくなるにしたがって上昇し、電相対性体の速度  $v$  が所定値より大きくなると、隣相対性体の表面電位の絶対値は一定の電圧となる。隣相対性体の表面電位の絶対値は一定の電圧となる。

面電位が置換特性2の塩基 $\nu$ の増大に応じて大きくなるのは、置換電極 $\mu$ と置換特性2との間の差による。換置特性2の差による電圧は入の容易化が行われることによるものであると考えられる。この差による電圧性入の容易化は置換特性2の塩基 $\nu$ がある程度大きくなる

と変化しなく、ほぼ一定となる。一方、雷電電圧 $u$ も $B$ のみに依存してこの雷電電圧 $u$ を発生したときの雷電 $v$ と地面電位との関係は、図 2 (E) の点線で示すように雷電 $v$ に比例なく一定の値は電圧 $v$ となる。なお、所定電圧 $v_0$  (+) の電圧の線でも同様である。

(102281) 次に、導込電圧3 bを $A(1)$ に供給してこの導込電圧3 bに(-)の所定電圧 $V_0$ を付加したときの導込電圧3 bの流し特性2への印加力(以下、単に導込電圧3 bの圧力という)と導込材料2の真正電位との関係は、図2(P)の実線で示すように導込電圧3 bの正負が逆になると、その関係も逆になる。

電圧が電流の圧力が大きくなるにしたがつては数般的に電圧が電流の圧力が大きくなる。これは、電圧が電流の圧力が大きくなるにしたがつては数般的に電圧が電流の圧力が大きくなる。

の強度が電圧電磁3bの圧力の増大にだけつてより内実になることによるものであると考えられる。この電圧電磁3bと磁場特性2との強度の相関性は、電圧電磁3bの圧力がある程度大きくなると変化しなく、ほぼ一定





とがである。また、押圧部材の押圧で電圧値で且つ方向の両方が揃うとがである。電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

11 本発明に係る変位形成装置の例を示し、図1は全体構成図、図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

12 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

13 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

14 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

15 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

16 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

17 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

18 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

19 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

20 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

21 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

22 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

23 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

24 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

25 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

26 図1の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図2は図1(A)の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

【図8】 図7の作用を説明するための図7 (B) と同様の拡大断面図である。

【図9】 図7の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図9 (A) は図9 (A) の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

【図10】 図7の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。図10 (A) は図10 (A) の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

【図11】 図11 (A) は、本発明の他の実施形態を示す拡大断面図、図11 (B) は図11 (A) の電圧値と電圧値の方向の両方が揃うとがである。

【図12】 本発明の他の実施形態を示す拡大断面図である。

【図13】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図14】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図15】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図16】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図17】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図18】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図19】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図20】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図21】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

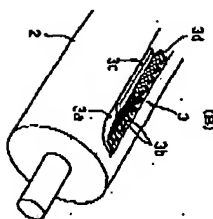
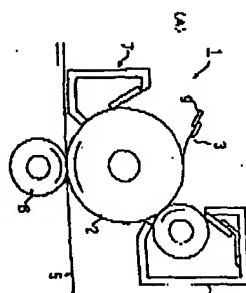
【図22】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図23】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

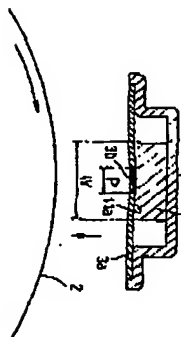
【図24】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

【図25】 本発明の他の実施形態を示す断面図である。

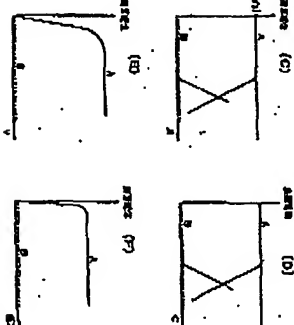
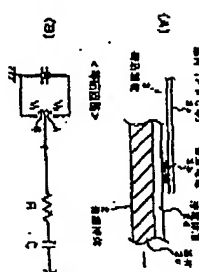
【図11】



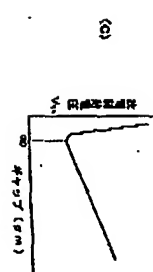
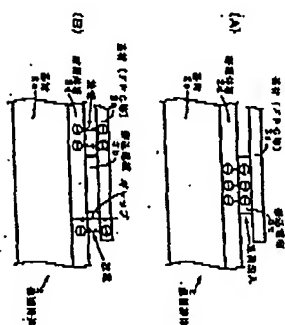
【図12】

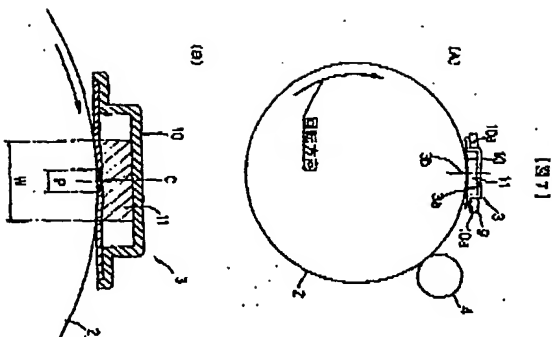
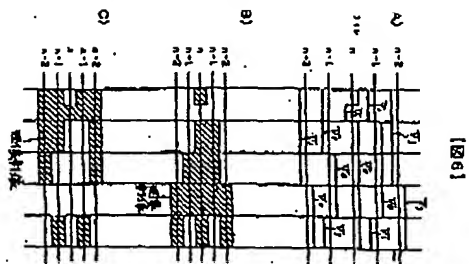
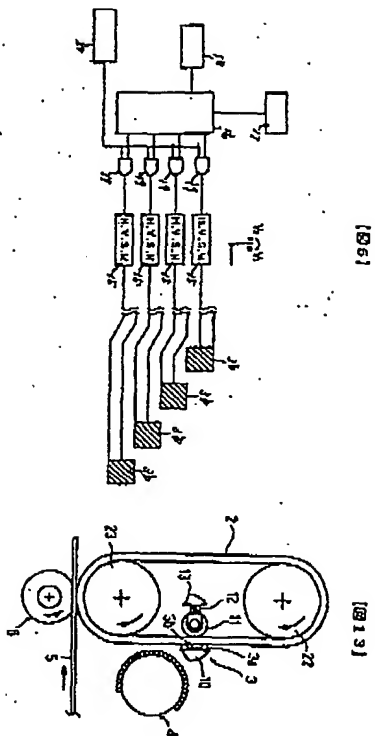


【図21】

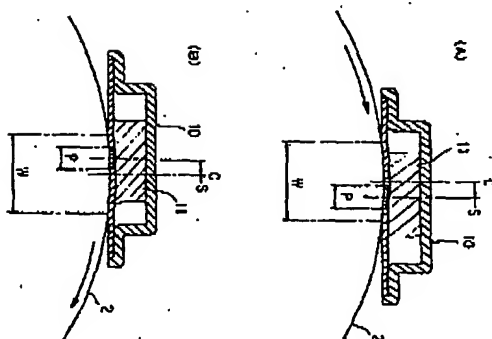


【図22】

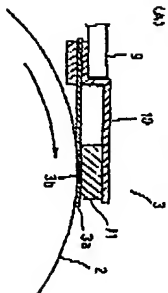




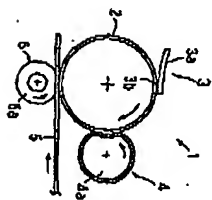
[图 8]



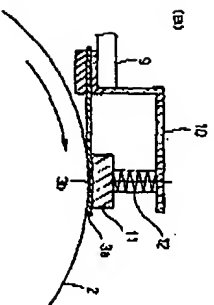
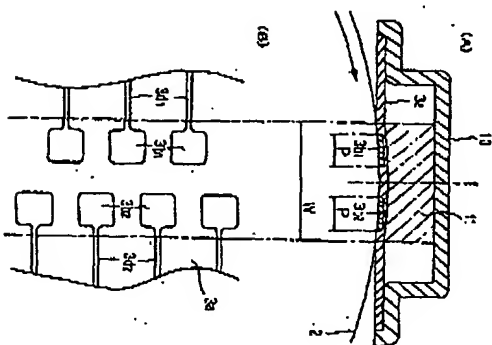
[图 11]



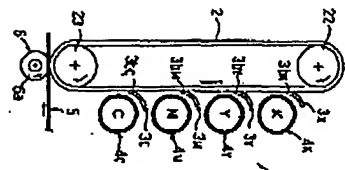
[图 14]



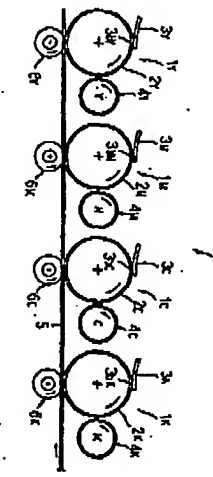
[图 9]



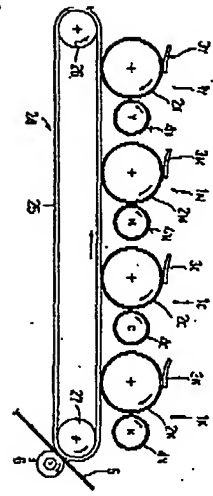
[図15]



[図16]



[図17]



コンポーネントの図

発明者 氏名 佐藤 伸一  
住所 東京都大田区大森3丁目3番6号 セイコ  
ーエレクトロニクス株式会社  
代表取締役社長 佐藤 伸一  
住所 東京都大田区大森3丁目3番6号 セイコ  
ーエレクトロニクス株式会社  
特許代理人 佐藤 伸一  
住所 東京都大田区大森3丁目3番6号 セイコ  
ーエレクトロニクス株式会社